

燃費は十分。尿素レスは大きな優位性。

エンジンの小型化で パワー不足を懸念したが それはまったく心配無用でした

—すでに2世代目のハイブリッド機ZH200-5Bを所有されていますが、導入のきっかけは何だったのでしょうか？

南社長 当時、現場で生産量を上げなければならない状況を迎え、日立建機の営業担当者に相談をしたのです。その時に勧められたのが、標準機ZX200-5Bとハイブリッド機ZH200-5Bの同時導入でした。今後は環境規制もますます厳しくなることは予見できたので、ハイブリッド機は1台あったほうが良いと判断し、ZH200-5Bを導入したのです。

ただ、正直なところハイブリッド機に関してはいい印象をもっていませんでした。というのも、他社製のハイブリッド機に乗せてもらったことがあるのですが、動きがあまりスムーズじゃなかったんです。力を入れると急激にエンジン回転が上がり、逆に落とすと急激に回転が下がる。すごくギクシャクした動きを感じました。燃費がいくら良いとはいえ、「これは使えそうもないな」という印象を当時は抱いていました。

しかし、相談した営業担当者は「日立建機の機械はそうなりません。エンジンは安定して回転するので、ギクシャクするようなことはありません」と断言したので、「それなら」と導入を決断しました。当時ハイブリッド機を導入している同業者はまだそれほ

ど多くなかったのが、元請けさんへのアピールにもなり、補助金制度も使えて価格的にもメリットがありました。

—日立建機のハイブリッド機に初めて乗られた印象はどうでしたか？

南社長 最初は自動車のハイブリッドのようなイメージを持っていました。燃費はいいけれど、踏み込んでもそんなにパワーが出ないんじゃないか——と。でも、ZH200-5Bに乗ってみるとそういう感じはありませんでした。若干、掘削した時にバケットとアームを引き込む力は弱いかなという印象はありましたが、それも細かな感覚的なところで、ほとんど気にならなかったですね。

以前、当社では他社製の油圧ショベルも使っていたのですが、日立建機の操作性の良さが気に入ってからは、ずっと日立建機の製品を使っています。

—新しいハイブリッド機ZH200-6のモニターテストをした印象はいかがですか？

南社長 2世代目となるハイブリッド機ZH200-5Bに比べ、最新機はエンジンを小さくしてさらに燃費を良くしたと聞いていましたから、その分パワーや操作性はどうなるのか不安でした。しかし乗った印象としては、最新ハイブリッド機ZH200-6のパワーや操作性は、現行機のZH200-5Bとほとんど変わらないですね。硬い土も掘削できますし、極端に力が弱いということはありません。エンジンが小さくなったと

は、まったく感じませんでした。バッテリーも1日使って十分に持つのかという不安がありました。バッテリーも1日使って十分に持つのかという不安がありました。バッテリーも1日使って十分に持つのかという不安がありました。

尿素レスのハイブリッド エンジンは魅力

—燃費が良くなったと感じましたか？

南社長 正直、燃費についてはあまり気にしていませんでした。仕事の契約は1日の作



代表取締役社長 **南弘明氏**

「尿素レスのハイブリッドエンジンを載せたZH200-6は、これからの油圧ショベルを大きく変えていくのではないかと、業界に対してのインパクトは大きい」と語る南社長。「燃費性能はかなり十分な域まで達していると思う。日立建機らしい操作性も高い水準で維持している」と評価する。

業量単位に基づいているので、その作業量がこなせないと燃費がいくら良くても魅力はありません。むしろモニターテストでは、動きがゆっくりにならないかとか、1日の仕事量をさばれる動きができるのかが気になりました。

でもオペレータからは、「確かに燃料の減りが少ないね」という話は出てきました。今回、現行のハイブリッド機ZH200-5Bとの比較で、平均で11.9%良くなっていると聞きました。長い目でみると燃費が良くなっている効果が出てくると思います。

むしろ、燃費よりも尿素レスのハイブリッドエンジンが採用されたことで、余計なメンテナンスが不要になったという魅力が大きいと思います。当社の場合、すでにトラックで尿素対応車を走らせていますが、現在2日に1回の割合で尿素水を補充しており、これが結構面倒くさい。建設機械の場合はさらに手間がかかるでしょうね。補充頻度はどのくらいか、尿素水はどこに保管



次は標準機も含めてZH200-6を導入する

兵庫県内の大規模造成現場でモニターテストを実施するZH200-6。斜面を切り崩して土砂を移動する作業をECOモードで行った。現場が広いので、走行も多く発生したが、1日中稼働してもバッテリーの電力不足を起こすことなく、十分なパワーを提供し続けた。



【動画が視聴できます】

※専用アプリをダウンロードの上、スマホを写真にかざすと動画がご覧になれます(詳しくは2ページをご参照ください)



すればいいのか、自分達で対応するのか、ガソリンスタンドを利用するのか。さらに今後レンタル機の場合には尿素水代を含めたレンタル料金設定になるのかといった疑問も出てくる。いろいろ聞いていますが、まだまだ不確定なことが多い。

尿素水の単価や補充頻度にもよりますが、ランニングコストがUPしますので、収益にも影響を及ぼすと思いますね。それが尿素レスで一切不要となれば、相当メリットが出てくるのではないのでしょうか。その意味でもZH200-6は使いやすいと思います。今後、標準機には尿素型エンジンの搭載が当たり前になっていくとすれば、むしろ次は尿素レスのZH200-6を買いますね。

— 今後、ハイブリッド機に期待することはありますか？

南社長 日立建機の機械はとにかく操作

性に優れ、とくに複合操作時のバランスがいい。ハイブリッド機も操作性、作業性をもっと標準機に近づけば、これ以上に望むことはないですよ。逆にいくら燃費が良くな

燃 費が向上して、エンジンは小さくなったと聞いていましたから、小さくまとまっているのかなと思って心配していましたが、操作性、作業性については高水準を維持されていて、安心して作業できます。旋回時にちょっと作業性が落ちるかなと感じましたが、乗ればすぐに慣れてくる程度のもので、全体の作業量からすれば問題ないと思います。

このレベルくらいまで達すると、頭ひとつ飛び抜けた性能というのは難しいと思いますね。

今回、車体上部に手すりが付きました。給油に来た燃料屋さんが時々車体

でも、作業効率が下がるようでは意味がありません。経営者やオペレーターの視点で捉えた「燃費」と「作業性」のバランスをより追求してくれることを期待しています。

上部に上ることもあるので、雨の日などは安心できますし、こうした配慮は嬉しいですね。あとはキャブの内装でしょうか。アスタコに乗ったことがあるのですが、近未来感があってカッコ良かった。そういうワクワク感も欲しいですね。

専務取締役
南 虎太氏
(オペレーター歴: 10年)

